

ごうし栄一

県議会だより No.14



ごうし栄一事務所 山口市赤妻町3丁目3番20号信和ビル2F
TEL (083)921-5455 FAX (083)921-5411

山口から日本復興!

暑中お見舞い申し上げます。山口県議会議員 合志栄一

今年四月の県議選では、前回に引き続き第一位で当選を果たさせていただきました。皆さまのご支援心から感謝申し上げます。

我が国観測史上最大の地震、東日本大震災が発生して凄まじい被害の実態が日々報道されている状況下での選挙戦となりましたが、「ガンバレ東北、ガンバロー日本」の合言葉のもと、私たちの身近な暮らしと地域の課題にしっかりと取り組むことと、山口からの日本復興を訴えさせていただきました。

当選後の議会では、引き続き保守系無所属一人会派「新政クラブ」としてやっていくこととし、土木建築委員会所属となりました。

今期も県政振興と県民福祉の向上のため、県政全般にわたる全力を尽くしてまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2月議会報告

今年の二月二日に召集された二月定例会議では、二井県政の総仕上げと位置付けられた総額七四六四億円の当初予算案や、岡田総務部長を副知事に選任する人事案等が可決成立いたしました。私は、三月三日に一般質問に立ち、三項目質問いたしましたのでその概要をご報告いたします。

①介護サービス情報の公表制度について

「人としての尊厳」が保持される介護サービスの質の確保を制度上担保してきた介護サービス情報の公表制度が、平成二四年度から廃止されるので、サービスの質の低下を招かないよう県の対応を求めたもの。

前向きな答弁は得られませんが、大事なことでありますので、関心を持ち続けていきます。

②森林づくりについて

百年先を見据えた森林づくりを、

体感、実感できるモデル森林づくりへの取り組みを提案しました。

二井知事から、「県内の森林すべてを、モデル森林としてとらえ、整備を適切に進めていきたい。」との答弁がありました。

③花粉交配用ミツバチの確保対策について

ミツバチが突然減少して、イチゴ等の施設園芸農家が花粉交配用ミツバチの確保に苦勞していることから、県に対応を求めたものです。

本県では、必要なミツバチ確保の手当てはできているとの答弁でしたが、将来を見据えての対策は必要と思われる。

6月議会報告

六月定例会議では、東日本大震災地支援を主たる内容とする三億五千万円の補正予算案等の議案が可決成立しました。

私は、六月三十日に一般質問に立ち、「上関原発建設計画への対応

について」ということで、二井知事の考えを問いました。

上関原発のことで取り上げたのは、東日本大震災に伴う福島原発第一事故の深刻な実態を目的の当りにし、原発について調べていくうちに、我が国の、原発推進のエネルギー政策は、原発への依存を減らしていくという意味での脱原発の方向に転換すべきであり、その転換を方向づけるものとして上関原発は中止すべきとの思いに至ったからで、三億五千万の思いでしたが、概要をご報告します。

①脱原発について

脱原発には、即刻すべての原発をとめる原理主義的脱原発と、原



発の新設・増設はしないことから出発して、電力事情に応じて順次原発依存を減らしていく現実的脱原発の二通りがあり、山口県は、現実的脱原発の立場に立つべきと訴えました。

知事からは、脱原発には確立された定義がないということから明確な答弁はありませんでした。

②「エネルギー基本計画」の見直しと上関原発について

二千三十年までに、上関原発を含む十四基の原発を新設・増設して

総発電量において原子力発電が占める割合を五十%にするとした国の「エネルギー基本計画」を、管首相は、原発依存を減らす方向で見直すとの方針を表明しているの

③上関原発と新エネルギー政策について

上関原発の計画では、平成三十年三月からの営業運転開始予定となつていことから、それまでの間に、太陽光・風力・小水力等の自然再生エネルギーと蓄電技術、スマートグリッド等を組み合わせる小規模分散自立型の電力供給体制をつくっていく。上関原発を中止しても電力不足は生じないことを指摘し、産学官共同で小規模分散自立型の電力供給地域モデルの構築に取り組むよう提案いたしました。

商工労働部長から、そういうことも視野に入れた産学公連携の「新エネルギー利活用プロジェクト」を推進していくとの答弁がありました。

東日本大震災に伴う福島原発事故は、原発大国化路線からの転換を日本に促す天の警告であったように感じています。

上関原発の中止は、その転換を方向づけるものとなりますが、電力事業者も含め関係者が納得してその転換が図られるよう県議として役割を果たしていきたいと考えております。

ごあいさつ

合志栄一後援会
会長 河内義重



皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素から、合志栄一後援会に賜りますご支援ご協力に對して、深く感謝申し上げます。さて、今回の県議選挙は三月十一日午後二時四十六分に起きました東日本大震災で多くの方々が犠牲になられ、万感胸にこもり言葉では云うことの出来ない状況下で行なわれました。

合志栄一候補は、大差にて連続二期のトップ当選を果たされました。

この度の選挙は、総決起大会も出陣式も取り止め、街頭演説を主体とした戸惑いながらの選挙活動でしたが皆様の力添えにて立派な成績を治めることが出来ました。

これから、合志県議には県政の場で山口から東北地域復興への力添えと県政の発展に力を発揮されるようお願いしたいと思ひます。

後援会は、日常の集会等の一つ一つの積み重ねが組織の拡大や組織固めとなりますので今後もお協力をお願いします。又、合志栄一県議の資金団体の「栄山会」の継続・新加入のご協力もお願い申し上げます。

これからますます暑さが厳しくなりますのでご自愛とご活躍をお祈り申し上げてご挨拶と致します。

二〇〇九年二月、アメリカ政府は「高レベル放射性廃棄物は、百万年の監視を要する。」との見解を発表しました。高レベル放射性廃棄物とは、原子力発電所から排出されるもので、主に使用済み核燃料のことをいいます。

「高レベル放射性廃棄物は、百万年の監視を要する」

この使用済み核燃料は、我が国では青森県の六ヶ所村再処理工場に搬入されることになっていまして、そこでは先ず溶かして液状にする処理がされます。

中に埋める計画になっています。問題なのは、このキャニスター一本の重量は五〇〇キログラムですが、猛烈に高い放射能を有していて、長期間それが残るということですが、放射能の大きな単位に、キュ

その十倍強の面積が立ち入り禁止になるほどの放射能です。それが一万年たつても六〇〇キュリーの放射線が残っており、百万年立つても同量のウラン鉱石の五〇〇〇倍の放射能が残っています。

三十三年までに、その数量はキャニスター四万本に達すると推計されています。これらを地層処分するということは、後世に借金を残す以上に深刻な環境汚染の負の遺産を残すことになり、やつてはならないことである。私、六月県議会で、原発への依存を減らすという意味での脱原発に国のエネルギー政策は転換すべきであり、山口県は上関原発中止の立場を明確にすべきと表明したのも、原発には安全性の確保問題と併せて、以上申し上げました放射性廃棄物処理の問題があるからです。(合志栄一)

東日本大震災被災地を視察

四月二十二日、新幹線で上京して、午後全国社会福祉協議会のボランティア活動振興センター副部長の後藤真一郎氏に会い、東日本大震災被災地のボランティア受け入れの状況について

て説明を受けました。その日の夜半十一時過ぎに、私と友人、それに彼が知り合いの建設会社の社員二人の計四人が車に同乗して東京を出発しました。

四月二十三日の明け方に石巻市に到着、まず石巻港周辺の被害状況を实地に見ました。以後、南三陸町、気仙沼市を視察し、当日夕刻に福島県郡山市にある避難施設を訪ね、派遣されている県職員を励ましました。

被災地の被害の実情は凄まじく、特に南三陸町は、街全体が津波で壊滅した感がありました。被災地の完全な復興までには相当の時間を要すると思われませんが、同じ日本人として被災していない我々も共にそのことに立ち向かっていかなければならぬことを痛感した視察でした。(合志栄一)



4月23日 石巻港、船舶が津波で打ち上げられている



4月23日 被災地視察を手配してくれた三輪氏と 於 石巻港



4月23日 街全体が津波で壊滅した感があまる南三陸町



4月23日 道路以外は、津波の爪跡がすさまじく残っていた 於 気仙沼市



4月23日 郡山市にある避難所ピックアップバスで福島第一原発事故による避難地域の町の人達が避難している



4月23日 東京と被災地往復の車を運転してくれた二人と 於 郡山駅

合志栄一後援会 幹事新年会

■時：平成23年1月30日 ■所：ホテル松政

恒例になっている、一月末の日曜に開催される幹事新年会が今年も、220余名が集まって合志県議と共に新年を祝った。今年の4月には、県議会選挙なので、挨拶はすべては合志県議応援への檄であった。

新年会開始前一時間「あいあいクラブ」によるバザーがありました。

アトラクションは、田口（後援会役員）氏が指導されている「吉敷鳳翫太鼓」の子供達が一心不乱に太鼓を打つ姿に、会場は感動の大拍手であった。

又ロビーには、画家寺田晴美氏の絵画が展示された。



幹事総会を終えてリラックスした合志県議挨拶
加藤政男氏の檄と愛情のある来賓挨拶
伊藤青波、上田好寿両市会議員を紹介



アトラクション 吉敷鳳翫太鼓の皆さん
合志県議 各テーブルを回って記念撮影



合志県議 各テーブルを回って記念撮影
寺田副会長の閉会の辞と「ガンパロークール」



河内会長の挨拶



有田敦市会議員の来賓挨拶



講演の合志県議員



幹事総会決議文を手に感激の合志県議



総会資料を真剣に読む幹事さん

〈次第〉

- ・開会挨拶
 - ・合志後援会の活動報告
 - ・合志県議員の活動報告
 - ・講演「新世代を拓く県議の役割 ―地域づくりは国づくり―」
 - ・その他 事務局より、現時点での県議選の状況報告があった
- 合志後援会の今後の活動について昨年十一月二七日の合志県議員出馬表明に則して幹事総会は合志県議の再選をトップ当選ではたす為全力にて後援活動開始を決議する

平成22年度 合志栄一後援会 幹事総会

□時 平成23年1月30日 □所 ホテル松政

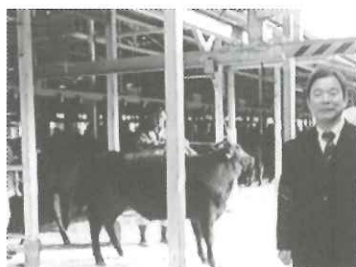
幹事総会合志栄一講演 骨子

幹事総会の記念講演では、合志県議が「新時代を拓く県議の役割」と題して、地域づくりは国づくりであり、これからの県議は、身近な暮らしと地域の課題に取り組みつつ、地方の現場の視点から、新しい時代に向けて国の変革が、真に実りあるものになるよう役割を果たしていかねばならないと、県議五期目に向けての決意もこめて講演しました。

写真で見る 合志県議の活動抄録 (平成23年1月~6月)



1月13日 平成23年度予算要望書(新生クラブ)提出



1月25日 JA山口中央家畜市場の視察(小郡)



1月28日 第2回山口の森林を考える会 勉強会 講師・マロニエの会会長・斉藤亘氏



2月24日 第12回 明日の障害福祉を考える会(鳴滝園分場) (5月16日、第13回明日の障害福祉を考える会)



2月27日 宇津木の里交流会(小嶺)



2月29日 出雲大社杯争奪少年サッカー大会(吉敷)



4月30日 防府天満宮茶芳松庵20周年記念(防府市)



2月21日 森林バイオマスセンター視察(宇部市小野)

合志栄一 県議会選挙報告会&懇談会

□時：平成23年5月22日(日) □所：ホテル松政(湯田温泉)

合志栄一県議による選挙報告会及び後援会の懇談会が沢山の参加者の下、何時もの会場、ホテル松政にて開催された。合志県議は連続トップ当選の喜びとお礼、又山口県議会での、無所属で新生クラブ会派の意図を話された。委員会所属は、土木建築委員会で、県議5期の期間中始めての就任とのことであった。次のステージ、懇談会は、2期連続トップ当選の喜びを分かち合う姿が溢れていた。特に今回のアトラクションは、後援会員の方々をお願いして、芸達者振りをご披露いただいた。ありがとうございました。ロビーでは、県議選挙期間中のスナップ写真約140枚が展示され、写真を指さして苦勞話しも花咲いていました。



県議選のお礼と県議会の報告



多くの参加 感謝



「五萬石」泉谷豊一さん



「銭形平次」吉本雅子さん



「熱唱？」金子圭子さん



「長持唄」寺田吉雄さん



河内会長、伊藤選対部長、有田選対代理上田顧問始め皆様ありがとうございました



テーブルを回ってお礼の合志県議

県議会選挙 ご支援ありがとうございます

しっかりとやりますー地域づくりは国づくりー

早いもので、四月十日の県議選挙から三ヶ月過ぎました。選挙結果は、後援会員皆様のご支援、ご尽力にて、二期連続の圧勝トップ当選の支持をいただきました。この事は、合志県議がたゆまず真摯に県政に取り組んで活躍されていること、そして後援会員も合志栄一県議を理解して、継続的に後援会活動をしている姿が、評価された結果、だと思えます。合志県議には、この支持を土台に保守系無所属一人会派議員として、思い切つて活動していただきたいと思えます。六月県議会では、別記掲載のように上関原発とエネルギー問題をテーマに一般質問をされ活発な活動を始めておられます。今後も皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

山口地区投票結果 (投票率47%)

当 合志 栄一 (61) 無現⑤ (14,335)	当 末貞伴治郎 (54) 自現⑤ (7,618)
当 松 永 卓 (62) 自現⑦ (12,475)	当 藤生 通陽 (63) 自現⑤ (6,564)
当 西嶋 裕作 (58) 民現④ (10,326)	次点 村 田 力 (42) 無新 (6,456)
当 吉田 充宏 (32) 無新① (7,943)	落 吉田 達彦 (52) 共新 (6,016)



3月21日 陣中見舞に來られた林芳生参議院議員



4月1日 東北ガンパレー合志ガンパレー



フットワークも軽く、支援者の方にご挨拶



トップ当選乾杯

コラム「毎日、少しずつ」

合志栄一
イエローハットの創業者、日本を美しくする会の相談役、鍵山秀三郎先生の講演を、久方ぶりに聞いて心に沁みました。日常生活に即してのお話が、なぜか心に響きます。そして、何か壮大なヴィジョンを話して、聞く人を魅了したいという誘惑に駆られがちな自分が恥ずかしくなりました。特に、「成程！」と思ったのは、整理整頓に関しての質問に答えてのお話。「その内、まとめて一気に誰かが」ではなく、「毎日少しずつ、出来るだけ、私」の心構えが大事とのこと。妻に言い聞かせるのではなく、先ず自分から実行しようという心になりました。

第12回合志栄一勉強会

『日本の食料自給率はこれで良いのか?』

県立大・小川雅広教授が2時間の熱弁

日本の食料自給率は、カロリーベースで40%である。国は、この値が低いと考え国民的なキヤンペーンを張って自給率の向上を訴えている。

しかし、自給率は依然40%のままである。

本講演では、なぜ自給率は上がらないのかの答えを見つけたために、なぜ自給率が下がったのかの理由と40%自給率の是非について考えてみたい。

講演に先立ち山口認定農業者の会の方に自給率40%をどう思うかを問うアンケートを実施したところ90%以上の方が低

過ぎると回答をした。

その理由を尋ねると、食料不足や食料危機に備える必要があると言っているのが大方の答えであった。

2004年アメリカのアースポリシー研究所のレスター・ブ라운氏は、「フードセキュリティ誰が世界を養うのか」と言う著書を著し、その中で世界食料危機が到来することを予言した。そしてそれを回避するための十の提言を行なった。

よる食料生産へのダメージ、そしてバイオエタノール問題が当面大きな影響を及ぼすと及した。

2008年東京大学の川島博之氏は、レスター・ブ라운のとなえる説に反論するため世界の食料生産について統計学を駆使して調査を行なった。その結果、レスター・ブ라운氏の予測は、大方外れると言う結論を導き出した。

さらに川島氏は、2010年に「食料自給率の罠」と言う本を著し、その中で日本の食料自給率の低下は、戦後日本の復興と発展のための必然的な結果であったと結論した。

つまり、日本の食料自給率は、高度成長期になって70%を維持していたが、それ以後低下の

一途をたどり、食管理法廃止される1995年頃に40%となり、以後40%を維持し続けている。

この間国は自給率向上のための政策を実施してきた。

しかし、現在に至っても自給率の向上は出来ていない。

日本の食料自給率の低下は高度成長期に入ってから起こった。

この現象は、すなわちGDPが向上すると農業生産額が低下することは日本にだけ起こったことではなく、どの先進国でも起こっていることであった。

この急速な食料自給率の低下は、食生活の欧米化したことも起因しているが、それは人々が豊かになってゆくと共に豊かな食生活を志向し、食べたいものを輸入するようになるごく自然

の成り行きであった。

従って食料自給率40%は、日本人は是としてしている事を意味している。

日本の自給率が向上しない理由は、日本人が豊かな食生活を選択した結果であった。

しかし、実際の日本の農業生産額は世界でも5位を維持しているのである。

日本政府の方針とは別に世界に通用する農業が一方では生まれている。

従って日本人はカロリーベースの食料自給率に目を奪われるのではなく、現実の農業のあり方に目を向けるべきである。

さもなければ本場の日本の食料自給率の向上はあり得ない。

第5回 あいあいクラブ 『帰郷庵と重源の郷』への旅

あいあいクラブの旅行は五回目になるようですが、私は今まで行事と重なり、今回初めて参加させていただきました。

梅雨の真ただ中で雨が心配されましたが、この日だけ晴天に恵まれ足元を気遣うことなく楽しませていただきました。

はじめに嘉村磯多の研究第一人者である多田美千代先生のお話を車中よりお聞きして、ま

た、心地よい風が通る生家（帰郷庵）でも、磯多の時代にタイムスリップしたかのようなゆっくりとした空間と時間が過ぎる中で先生にお話しいただき、磯多の人間性や作風を改めて知ることができました。

お隣に在ります笑う木小屋さんからは、ドイツパンを試食させていただき、仁保の美しい田園風景を後にしました。

重源の郷では、きれいな紫陽花が迎えてくれました。

到着後、すぐにグループに分かれて、蕎麦打ち・を楽しみ、昼食はその自分たちで作っ

た太かったり、細かったりするお蕎麦と一緒に、山菜のてんぷらも味わい舌鼓をうちました。

石風呂も火を入れて暖かく用意されており、少し入らせてもらいましたが、すぐに汗が滲みでてきました。

また、民俗資料館では、東大寺の建立のために徳地の大木が運び出された当時の状況説明をしていただき、重源上人の苦勞が偲ばれました。

林間の遊歩道を木漏れ日の中、散策出来たのも心地よく、体が知的に満たされた感じがしました。とても有意義な日帰り旅行でした。

吉野ミチ子

第2回 よつば会ゴルフチャリティーコンペ好評



さる、5月30日(日)湯田カントリークラブにて参加者59名(女性5名)でチャリティーゴルフを楽しみました。

当日は台風2号接近の影響でグリーンが悪くなり「ハーフにて終了、昼食後に表彰」と宣され参加者はニコリ。

表彰式終了後、再会を約束して、吉永会長は閉会とした。

今回も打ち上げ会が開かれこれ又好評であった。

チャリティーにご協力いただいた皆様あ

順位	氏名	アウト	イン	グロス 合計	HD	ネット
優勝	篠原 龍雄	36	44	イ 2	10、8	69、2
2位	河内 義文	36	46	イ 4	12、6	70、0
3位	小泉 喜一	36	48	イ 7	13、2	70、8
4位	佐藤 英仁	36	53	イ 17	18、0	71、0
5位	小田 達郎	36	52	イ 14	16、8	71、2
16位	古谷静史郎	41	36	ア 1	4、8	72、2
35位	重政 芳巳	36	42	イ 1	3、6	74、4
30位 (当日賞)	児玉 和行	51	36	ア 9	13、2	73、8
54位 (合志賞)	山口 康夫	57	36	ア 21	15、6	77、4
57位	合志 栄一	72	36	ア 27	28、8	79、2
BB賞	藤田 美穂	66	36	ア 26	19、2	82、8

りがとうございます。
篠原龍雄さん、優勝おめでとう。



合志栄一後援会 活動抄録

(平成23年1月~6月)



1月13日 新聞紙によるバック作り講習会(あいあいクラブ)



2月3日 宮野地区ミニ集会



2月4日 小郡地区ミニ集会



3月3日 鑄銭司地区ミニ集会



3月4日 白石地区ミニ集会



3月7日 県議選対応打ち合わせ会



3月12日 白石地区ミニ集会



3月15日 号外「創」3刷発行
合志県議の4年間の活動の啓蒙の
為 号外(1刷~3刷)を発行



3月22日 嘉川地区ミニ集会



3月24日 合志栄一後援会
お世話人大会



3月29日 県議選挙応援打合せ
(あいあいクラブ)



4月26日 秋穂二島地区ミニ集会



4月28日 あいあいクラブ役員会



5月18日 合志後援会役員会



4月30日 阿東地区 合志栄一県議
を囲む会

伊勢崎友一君ありがとう



突然、(故)合志誠一郎君の友人、伊勢崎友一さんが現れ、県議選挙を約1ヶ月手伝ってくれた。

若くて、良く動いて、爽やかで、心ろ配りをする彼は、直ぐ人気者になった。事務所の潤滑油であった。

県議選慰労会をする前に、スト帰京した。

伊勢チャンありがとう。(T.S)

桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金へ義援金



東北地震災害に対し、合志県議の発案で後援会も義援金箱を設けた。

5月31日に、三隅あいあいクラブ会長、吉永ゴルフ愛好会長、佐藤お世話人が事務所にて、開箱と集計をしました。

金額は義援金箱+ゴルフチャリティー金+あいあいクラブ寄付金(調整)=15万円でした。

寄付先については、合志県議に一任されていたのでみだし育英会(安藤忠雄建築家主宰)になりました。ご協力いただいた皆様御礼です。

事務所メモ

栄山会のご案内

合志栄一氏の政治活動を資金的に支えるために資金管理団体「栄山会」があります。この栄山会にご支援いただいた資金は、幅広い支援活動をする合志後援会の活動経費に充当されます。諸事多端の折から恐縮ですが、「栄山会」の趣旨にご理解を賜わり、ご継続・ご入会いただきますようお願い申し上げます。

【組織の名称】 栄山会 代表者 合志栄一
【会費受付】 一口 年額 2,000円(複数口数可)※納付者は個人に限ります
【会費振込先】 郵便振替番号 01380-7-41 加入者名 栄山会
・山口銀行 山口支店(普) 6141625 栄山会代表 合志栄一



近くにお越しの時には
お気軽にお寄り下さい